

JSIR NEWS LETTER

国際リハビリテーション研究会

巻頭言

『COVID-19と国際リハビリテーション』

(一社) Bridges in Public Health 理事 石本 馨

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) の広がりには加速し、このニュースレターを読んでいる皆さんも、臨床で、教育の場で、国際協力関連で、対応を余儀なくされていることと存じます。各々の立場で闘う皆様にお見舞い申し上げます。

COVID-19が起こすのは肺炎だけではありません。感染対策の名目で差別、人権侵害、コミュニティの分断も、国内外で起きています。疾病という災害が、人道的緊急事態にまで発展しかねない状況と言えるでしょう。先が見えない恐怖と不安、そして、それらの解消に役立つべき正しい情報が得られないことが、その原因と思われます。

「国際リハビリテーション学」(2016)によると、災害時は、社会的に脆弱な立場に置かれている人びとに被害が集中しますが、その脆弱な立場故に、実状が見えにくい(あるいは隠される)傾向にあります。

私たちが今直面している課題に向かうことは必要ですが、見えていないこと、今後起こり得ることを冷静に推測し、対応方法を考えることも重要です。障がいを持つ人、途上国で暮らす人、日本で暮らす海外ルーツの人がこの危機にどう直面しているのかを知り、国際リハビリテーションを志す者としてなすべきことは何かを考えましょう。



[特集]

『ミャンマー・カレン州農村部に暮らす障害児・者の現状』

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 作業療法学科 教授 河野 眞



2018～2020年度の3年間、科学研究費助成事業基盤研究（C）を得て、「ミャンマー・カレン州農村部における障害者の生活ニーズ～紛争と障害者に関する調査」を実施しています。これは対象15村の全障害児・者への悉皆訪問調査と一部対象者への半構造化面接を組み合わせた混合研究です。このたび、訪問調査の結果をひと通りまとめることが出来たのでその一部を紹介します。

対象15村の障害児・者は292名で、人口の2.11%に当たります。これは、WHOによる世界の障害者の割合15.6%、ミャンマー政府による2014年国際調査での障害者の割合4.6%などと比較すると非常に小さい数字です。ただ、今回の調査では「障害によって生活に困難がある者」を対象としたため、比較的重度な障害のみが抽出された結果と考えられます。

年代別では19歳以下が34.2%を占めており、この地域の障害関連課題とは若年層に重心のある課題であることが推測できます。

障害種別では運動障害が最多であり、その後は知的障害＞聴覚障害＞視覚障害の順となっていました。ただし、重複障害を持つ者が32名おり、途上国の農村部であっても重度重複障害という課題が一定のボリュームで存在することが分かりました。

また、19歳以下の若年層では知的障害を持つ者が最多であり、就学面における知的障害児支援の必要性の高さが推察されました。逆に、50代以上で知的障害のある人は稀であり、何らかの理由で知的障害のある人が短命になっている可能性が示唆されたと考えています。

カレン州は第2次大戦後から2015年まで内戦下にあった地域であり、今回の調査対象者の中にも地雷や戦闘など内戦に起因して障害を負った者が14名いました。その全員が40代以上であり、うち13名が男性で女性は1名のみでした。この地域の内戦という要因における時代性や性差を表す結果と考えられます。

障害者のいる世帯の特徴としては、270世帯中34世帯が1人～2人暮らしであり、途上国の農村部とはいえ、介護力の調達課題となる人々が一定のボリュームで存在するように見受けられました。

訪問調査と共に実施している面接調査では、現在10名からの聞き取りが終了しています。今後は訪問調査による量的データと面接調査による質的データを組み合わせて考察することで、この地域の障害児・者の現状の理解を深めたいと考えています。

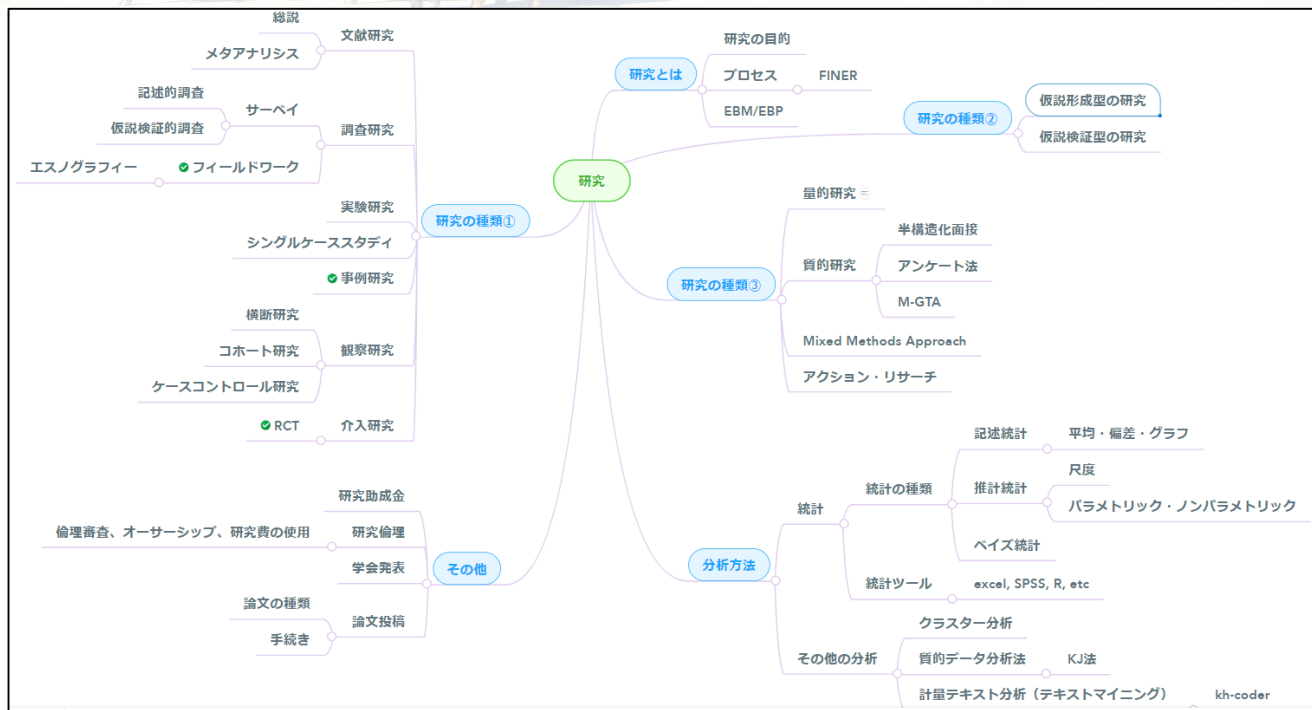
国際リハビリテーション研究会ではこれまで3年にわたり3度の学会を開催しました。その中で、「研究に興味はあるが、何をすればよいか分からない」「自身の国際協力の経験について発表したいが、どうすればよいか分からない」といった声がしばしば寄せられています。どうしたら、より多くの方々に発表をしていただけるか。そんな中、事務局・山口佳小里と高橋恵里の思い至ったのが本連載です。

[連載] 山口高橋の
研究万華鏡*

下図は、山口高橋の独断で、国際リハビリテーションに関連の深そうな研究領域と、不可欠なトピックを並べたものです。調査研究、実験研究、フィールドワークなど研究の種類から、統計、クラスター分析などの分析方法、研究倫理、助成金や論文投稿まで、幅広い内容をラインナップしています。本連載では、この中から筆者の気の向いたトピックについて、ランダムに綴っていく予定です。研究に関する基本的な事項についても多く取り上げます。気軽に連載を読む中で、少しでも研究について知っていただき、親しみを感じていただければ幸いです。

最後に簡単に書籍を紹介します。「医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ第4版（木原雅子・木原正博（訳）メディカルサイエンスインターナショナル、2014）」は、手にした方も多いのではないのでしょうか。入門書としては難しいかもしれませんが、実際に研究に取り組む際に大変参考になる本です。統計が分からない、という方もいるかもしれませんが。そんな方には、「すぐできる！リハビリテーション統計改訂第2版（山本澄子（監）南江堂、2019）」が大変分かりやすいです。

本連載では皆様からのご意見も募ります。希望テーマやお勧めの書籍などありましたら、事務局までご一報ください。掲載を検討します。（山口佳小里）



【お知らせ】

【ATbankのホームページを開設しました！】

本研究会技術部による、実践に役立つ適正技術を集約したホームページを開設しました。タイムリーにケース共有やディスカッションができ、参考資料やWEB資源の共有も可能です。スマホでも利用可能です！まずはURLからATbank登録をお願いします。

URL : <https://atbank2019.wixsite.com/atbank-jsir>

【国際リハビリテーションセミナー2020・第3回通常総会開催】

6月上旬頃に開催を予定しています。開催方法については、COVID-19の流行状況を踏まえて検討します。詳細は追ってメーリングリストやFacebook等でご連絡いたします。

【コラム】 大室和世の『世界のめがね－バングラデシュ編』

事務局担当の大室理事は大分を拠点に世界中で活動を展開中です。

このコラムではそんな大室理事のメガネを通した世界の姿を毎月お届けします。

11月。その少し前に、ミャンマー治安部隊との衝突のために、数十万の人々がバングラデシュに避難したという事案が発生していました。バングラデシュにやってきた人々は、文字通りの着の身着のまま。片手に幼子を抱える母と、その母の裾を持つ5歳ぐらいの子どもの3人が、キャンプ内を不安そうにうろろと歩いていたのを思い出します。ほとんどの人々が、竹と木きれで急ごしらえした家に身を寄せ何とか生活していました。

▼それから約2年が経ち再訪問してきました。十分とは全く言えないものの、きちんと建てられた家、長期間使えるようピットが2つあるトイレ、ブロックを敷き詰めたメインの通りなど、生活環境が大きく改善されている様子うかがえました。しかし、未だミャンマーに帰還する目途はたっており、約100万人がキャンプでの生活を余儀なくされています。

前回の「めがね」を読み返したところ、「コロナ」なんていう言葉は一切出てきていませんでした。しかし今はどうでしょうか。たったの3ヵ月です。恐怖も感じますが、世界の小ささ、密接さを感じます。▼今回は、バングラデシュで実施しているミャンマー避難民（ロヒンギャ）支援について。私が初めて入ったのが2017年



2年前はこうした橋はかかっていませんでした。少しずつ暮らしが整えられています。



数十万人の避難民が暮らしているキャンプ。左にあるのはソーラー式の電灯。

そして、障がいのある人がこのキャンプのどこにいて、どのように生活をしているのか、今回の出張でもつかむことはできませんでした。▼こうしたキャンプは、感染症が蔓延するリスクが非常に高い場所なため、AARでは感染予防の活動にも注力しています。世界全体で感染拡大が抑えられるよう、できることをやっていきましょう。（2020年4月13日）

編集後記

このたびの新型コロナウイルスの感染拡大により生活に影響を受けている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。編集作業中にも日々猛威をふるい、不安な毎日が続きましたが、このように発行できたことを有り難く思います。こんな時こそ、日々の生活を大切に、小さな喜びを見つけていきたいと思ひます。（大西 海斗）

編集を通じてCOVID-19の影響の大きさを感じています。予防とリハは両輪である、と以前ある医師より教示されましたが、私も自分の予防を省みる日々です。現状の早い終息が願われます。（古川 雅一）

【研究会FaceBook】 <https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/> 国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/
【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局 jsir.office@gmail.com

